社外取締役メッセージ

内田　憲男

事業環境は物凄いスピードで変化しています。この環境下で会社を成長させるには、人財育成力、技術・モノづくり力の優位性、情報の共有が必須です。会社は、構造改革・経営基盤の構築期を経て、利益ある持続的成長を目指しています。そのためには、ULVACの直面している課題の克服が必要です。

会社の財務状況は改善しており、事業の選択と集中の議論を常態化させつつ、積極的、且つ社外にも評価が得られるような投資が必要です。特に技術やモノづくりにおける事業最先進国での拠点戦略に期待します。取締役会は、コンプライアンス・ガバナンス重視の経営姿勢は勿論ですが、課題であるグローバルトップを目指すための投資・人財の育成・危機管理の強化・戦略を実行するためのシナリオ力強化等のための教育に積極的に関与・監督していきます。

未来のULVACの成長は、グローバル人財・グローバルトップの技術とモノづくり力・情報共有と的確でスピードある経営判断が基盤です。改革はトップダウン型、成長はボトムアップ・全員参加型です。全員が常に危機意識を持って環境変化への応変力・感性を磨き、社外に通用するグローバル人財を目指して下さい。全社一丸で新しいULVACの風土・企業文化を作っていきましょう。

石田　耕三

今、世界はCOVID-19によって経済・社会の混乱に加え政治的にも人類にとって未体験な領域に突入しています。ULVACは真空技術にプラズマ技術など新たな技術を付加する事で広く産業や民生分野の基盤を支えるビジネスをグローバルに展開し成長をして来ました。しかし、ULVACも例外ではなく、今まさにこの大きな混乱の渦の中に巻き込まれつつあります。

この渦の中から脱出するには従来の発想だけではない新たな知恵と行動が今強く求められています。この大きな社会の変貌を好機として大胆かつ慎重に全社員がワンチームとなって「モノづくり」の基本に立ち返り、全ての部門、グループ会社が改善を積み上げ、改革を起こす事で次の成長をつかみ取る事が大切だと考えます。そして、スピード感をもって中長期経営計画をやり遂げる覚悟と実践を示す事がステークホルダーの皆様から期待されています。

そのためにはULVACの内部に蓄積されてきた優れた人財や技術の再開発に積極的に取り組み、未曾有の危機に立ち向かう力をつけると共に、将来に向けた変化に対するレジリエンスを高める事が重要と思います。そして私は社員の皆様と共にその責務を果たして参る所存です。

中島　好美

今まで体験したことのない事業環境の変化の中で、「社会に求められる企業」として事業を拡大していくことは、ULVACにとってチャレンジであり大きなチャンスであると考えています。モノづくり力を強化し、利益率の改善・市場のニーズを先取りすることによるシェア拡大を継続して実現するためには変革が必要であることは自明であり、過去の成功体験にとらわれず、大胆に挑戦していくという意識改革が進んでいます。経営層の強いコミットメントに加え、若手を中心としたボトムアップのアイディアや自主的な啓蒙活動も活発に行われていることでもそれは実感できます。

変化の激しい環境の中、どれだけタイムリーに柔軟に自ら変わり、変わり続ける組織でいられるかが課題であり、世界を市場とするULVACにとって、「グローバルな展開をけん引する人財の確保・育成のためのキャリアパス」「変化を求める組織文化の強化と確立」が課題解決に必要です。

米系欧州系のグローバル企業での経営、アジアでの事業経験をもとに、特に人財・組織文化の分野に継続して貢献・注力してきました。引き続き、各地域・各層の社員と触れ合う時間を有効に使い必要なアクションや制度を社外の目と耳で理解して、執行へのアドバイスなどを行っていくことで「実効性とスピードを持った改革」を実現していきたいと考えています。

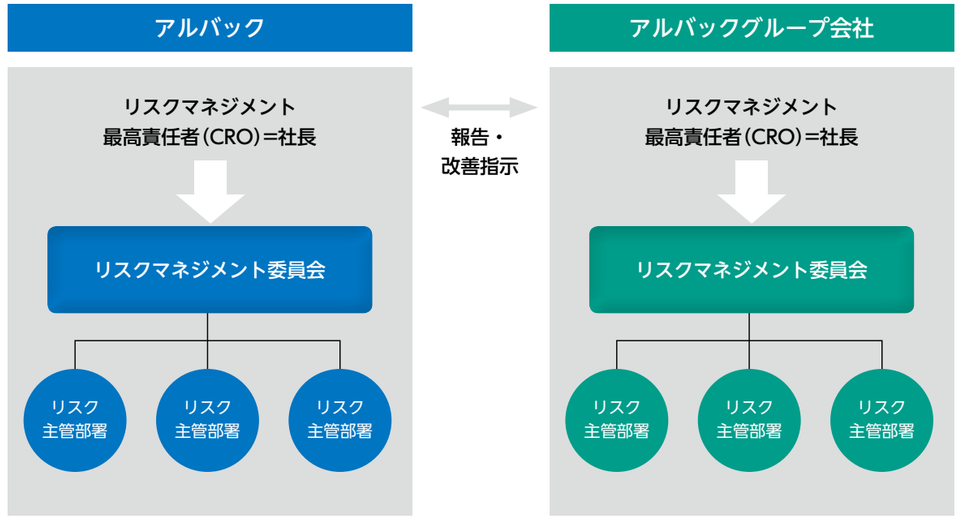
リスクマネジメント

複雑多様化するリスク要因に対して適切な対応をとることが、各種法令の要請の充足や内部統制体制の確立に繋がるガバナンス体制の構築、ひいては中長期的企業価値の向上に繋がるものと考えています。そこで、各リスク要因に対し、識別・分類・分析・評価を通じて適切な対応ができる体制の拡充を図っており、経営戦略に反映させることでより一層の企業価値向上に努めています。

リスクマネジメント体制

アルバックにおけるリスクマネジメントへの取り組みとしては、リスクマネジメント体制に関する諸規定を制定し、広範なリスクを多岐に渡る視点から大分類し、それぞれの分類されたリスク毎に主管部署を設置しています。さらに、この主管部署がより具体的なリスクを洗い出し、対応をすることとしています。このリスクマネジメント体制の運用においては、特に、重要な情報が効率よく主管部署に集約されるように努めています。加えて、全社的にこのリスクマネジメント体制の運用についての情報の共有化と検証を図るため、社長を委員長とし、各主管部署を中心として構成されるリスクマネジメント委員会を設置しています。このリスクマネジメント委員会は、リスクマネジメント統括組織として年2回定時開催され、全社的な基本方針決定や管理運営状況の把握と改善などの検討を行っています。また、アルバックにおけるかかる取り組みは、ULVACグループ会社においても、その規模や業態に応じた形で導入しています。

リスクマネジメント体制



- リスクごとに主管部署を設定し、PDCA によるリスクマネジメントを行っています。
- グループ会社においては、各社の規模などを勘案して、リスクマネジメント委員会の設置を判断しています。

リスクマネジメント(続き)

リスクに対する取り組み

ULVACの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性がある主要なリスクを以下のように定め、常勤役員会等の意思決定機関における議論を通じてこれらのリスクを低減し、機会として活かすための対応を検討しています。

市場変動

ULVACは、特にFPD、半導体及び電子部品等の製造工程で使われる真空装置の分野において、独自に開発した製品を市場へ投入することにより成長してまいりました。市況の変化により、顧客の設備投資に大幅な縮小が発生した場合や顧客の財務状況が悪化した場合には、経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

これに対し、ULVACは、2020年度から始まる新たな中期経営計画における「成長に向けた開発投資(選択と集中)」、「体質転換による利益重視の経営」の2つの基本方針のもと、市場変動の中でも生産性向上による利益率の改善を果たすとともに、成長領域における開発に集中していくことで、持続的成長を実現してまいります。

研究開発

ULVACは、積極的な研究開発投資を継続して行うことにより、最先端技術を使用した新製品を市場に投入し続けてまいりました。しかしながら、開発の著しい遅延を余儀なくされ、新製品の市場への投入の遅れが生じた場合、経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

成長のために必要な開発について、投資の選択と集中によりスピードアップを図るとともに、定期的なモニタリングを実施して著しい遅延が生じないよう、その進捗を管理しております。

各国・各地域における政治・経済の状況

ULVACは、グローバルに且つ広範な事業展開をしており、各国・各地域における政治、経済環境の変化による様々な要因が、経営成績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

特に、米中貿易摩擦の拡大に起因する関税や各種の規制が発動されるリスクを注視し、必要な対策を講じてまいります。一方で、中国における電子、半導体の国産化が促進されるものと予想されます。当社はこれをビジネス拡大の機会と捉え、中国における事業を更に拡大させていきます。

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界的な移動制限や経済環境の悪化は長期化する懸念がありますが、代表取締役社長を本部長とする新型コロナウイルス緊急対策本部を立ち上げ、感染拡大防止対策を講じながら、事業活動への影響を最小限にとどめるよう努めております。

認識している事業等におけるリスク

1. FPD、半導体及び電子部品の市場変動による影響
2. 研究開発による影響
3. グローバルな競争環境の影響
4. 人材の確保に関する影響
5. 法令、規制に関する影響
6. 品質に関する影響
7. 資金調達に関する影響
8. 情報セキュリティに関する影響
9. 外国為替変動による影響
10. 知的財産権に関する影響
11. 安全に関する影響
12. 環境対応に関する影響
13. 新型コロナウイルス感染症の影響
14. その他(各国・各地域における不可抗力要因)のリスク

コンプライアンス

法令遵守を重視し、ULVACの一人ひとりが法令遵守精神のもとで行動するような啓蒙活動に努めるとともに、法令遵守をより徹底するための各種体制や規定類を定めて運用しています。

企業倫理行動基準

ULVACは、役員及び社員の職務の執行が法令及び社内諸規定に適合することを確保し、企業としての社会的責任を果たすべく、各人の遵法精神を啓蒙するため、18項目からなる企業倫理行動基準を定め、教育とともに小冊子の配布を行っています。

コンプライアンス教育

アルバックでは、遵法精神の啓蒙活動に努めています。その一環として、企業倫理、輸出コンプライアンス、インサイダー取引防止、ハラスメント防止などについて、定期または臨時に、Web教育、対面式研修および理解度確認テストを実施しています。

内部通報制度

アルバックは、独立性が保障された監査室を窓口とする内部通報制度を採用しています。監査室は、コンプライアンス委員会の事務局でもあり、通報内容の調査過程の秘密保持に十分配慮した体制となっています。ただ、通報者は、通報先として社内の他機関・組織を選択することも妨げられず、この場合も適切な対応をすることとしています。

また、匿名による通報も認めるとともに、通報者に対して不利益な取り扱いがなされないこととしています。

内部通報を受けた後の対応としては、まず、アルバックにおけるコンプライアンス委員会による事実関係の調査を実施します。この調査は、公正性に特に配慮し、慎重かつ綿密に実施しており、必要に応じた弁護士などの外部専門家の協力を得ながら、丁寧かつ可及的広範囲なヒアリングの実施やその分析を実施することとしています。

また、コンプライアンス委員会の構成員についても、当社社長を委員長とし、構成員自ら厳格な守秘義務を課して運営されています。

違反行為への対応

コンプライアンス委員会による調査結果をもとに、諸法令や諸規則の違背事実が認められると判断された場合、必要に応じて弁護士などの外部専門家の意見も取得した上で、違背事実について、即時停止や改善対応を実施し、違背行為に関与した者に対する処分を然るべき機関の審議を経て実施します。さらに、違背行為が起きた根源的な原因まで検討を行い、より実効的な再発防止策を講じるよう努めています。